

第2グループ

第2グループガバナー補佐 島田 敏郎 (富士見 RC)



次年度第2グループガバナー補佐を務めさせていただくことになりました、富士見クラブの島田敏郎と申します。偉大な先輩方が大勢いらっしゃる中、このような役職に推薦いただきましたこと大変光栄に感じております。五十幡ガバナーエレクトのもと、第2570地区の発展に貢献できるように一年間尽力してまいりたいと思います。

さて、次年度の地区活動方針は「入って良かったロータリー」です。現会員の皆様や、これからロータリーに入会する皆様に「入って良かった」と思ってもらいたくため、第2グループでは「ロータリーの基本に返ろう」ということを掲げていきたいと考えております。

この「ロータリーの基本に返ろう」というのは、実は2022-2023年度に私が富士見クラブの会長を務めた際にも掲げていたスローガンと同じものです。ここで言うロータリーの基本とは、「友情」であると私は考えています。

ロータリーは1905年、ポール・ハリスによって始められました。彼がロータリーに求めたものこそ、「友情」でした。彼が「あなたは何故ロータリーを始めたのですか」という日本人ロータリアンの質問に「淋しかったから」と答えたというのは、非常に印象的なお話です。また、彼の著書である「ロータリーの理想と友愛」には、ロータリーへの加入により得られたものの中で、何よりもすべての会員にとって財産となったのは友情であり、会員同士の親密さは他団体と比べても群を抜いていたと述べられています。

五十幡ガバナーエレクトの「入って良かったロータリー」という活動方針を初めて伺った際、私はこのポール・ハリスの話を読み出しました。私自身もやはり、どのような時にロータリーに入って良かったと思うのかと聞かれれば、やはりロータリーでしか得られないような人と人との繋がりを感じた瞬間だと答えるでしょう。いち経営者として業界に身を置いているだけでは出会えなかったであろう方々と、時に酒を交えながら様々な話題に花を咲かせることができるのはロータリーに入ったからこそであり、この歳になっても自分の知らなかった世界を知るきっかけをたくさんいただけることは、普段の生活においても励みになっていると感じています。

もちろん、ロータリーは友情だけの組織ではありません。しかし、友情を大事にするということが、他の組織には見られない「ロータリーらしさ」となっていると私は考えます。

ただ、「基本に返る」ということは「変革を受け入れない」ということではありません。

国際ロータリーのステファニー・アーチック会長エレクトは、2024-2025年度会長テーマとして「ロータリーのマジック」を発表しました。アーチック氏はクラブでの体験を会員にとって魅力的なものとなるようガバナーに求めたうえで、地区内のクラブが活発に活動していなかったり会員が減少していたりする場合には、その地区でのクラブの活動を見直す時期が来ているかもしれないと述べました。そして、好ましい変化をもたらす一つの方法はクラブで多様性、公平さ、インクルージョン、つまり DEI の原則を受け入れることであると呼びかけました。

ロータリーの基本を大切にしながら DEI の原則を受け入れることで、より多くの人にロータリーでしか得られなかった出会いと友情を経験していただき、ぜひ皆様に「ロータリーに入って良かった」と感じていただけるよう、ガバナー補佐として各クラブの支援をしていきたいと考えております。

皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。